



- 国際ロータリー会長 ステファニー・A・アーチック
- 国際ロータリー 第2660地区ガバナー 大橋 秀典

真実から目をそむけることはできない。助けを求めることは勇気ある行動です。
健康と幸せにいたる道を求めることは、さらに勇気があることです

例会場 箕面観光ホテル 例会日 毎週木曜日 18:30~
事務局 〒562-0006 大阪府箕面市温泉町 1-1 (箕面観光ホテル内) Tel:072-724-2781 Fax:072-724-1786
Email: mino-orc@abeam.ocn.ne.jp HP: http://mino-orc.net/

NO.2598

2024年7月18日発行

●今週の例会プログラム
2024年7月18日(木) 第2607回例会
新年度方針 各委員長

会場:箕面観光ホテル

●次回の例会プログラム
2024年7月25日(木) 第2608回例会
新年度方針 各委員長

会場:箕面観光ホテル

◆前回例会◆

出席報告

・2024年7月11日(木) 第2606回
会員数 36名 出席者 19名 (出席率 55.88%)

◆会長挨拶◆

庄司 修二

本日はロータリーソングについてお話させていただきます。
ロータリーソングは、現在、世界で140曲以上あるそうです。

日本でよく歌われるロータリーソングは

- ・奉仕の理想
- ・我等の生業
- ・手に手つないで
- ・それでこそロータリー
- ・四つのテスト

が挙げられます。



日本のロータリーソングで最もよく歌われ、最も古い「奉仕の理想」と「我等の生業」は1935年、京都の地区大会で発表されたものです。

「奉仕の理想」は、作詞は前田和一郎(京都RC会員、都製薬所社長)で、作曲は荻原英一(東京RC会員、東京音楽大学教授)です。実は、前田が書いた元々の歌詞は“世界に捧げん我らの生業”でした。しかし、時のガバナー村田正蔵(大阪RC会員、大阪商船社長、後の近衛内閣で通信兼鉄道大臣)から、時勢に鑑みて“御国に捧げん我らの生業”に変更するようにと要請され、変更を余儀なくされたそうです。終戦後、前田は亡くなる前、親しい友人に「いつの日か、歌詞を“世界に捧げん”に戻してもらおうと有り難い」という言葉を残しています。

「我等の生業」は、作詞が高野辰之(東京音楽大学教授)、作曲

が岡野貞一(東京音楽大学元教授)です。実は、二人ともロータリアンではありません。そればかりか、この二人は唱歌「ふるさと」をはじめ、「春の小川」、「春が来た」、「おぼろ月夜」、「紅葉(もみじ)」などの作詞・作曲の名コンビです。「ふるさと」は、曲調(旋律)は賛美歌ですが、歌詞は和歌を基調としたもので、深い趣がある日本独自の唱歌として知られています。それだけに、「我らの生業」も同じような趣を感じる人も少なくないでしょう。この二人がロータリーソングを作ることになった経緯については、よく分かっていません。「奉仕の理想」を作曲した東京RC会員の荻原英一が、東京音楽大学の繋がり縁をとりもった可能性もあるのですが、調べた限りでは不明でした。

第2次大戦後につくられた「手に手つないで」はクラブや地区単位で行われる懇親会の最後に、参加者全員が手をつなぎ、大きな輪を作って大合唱します。

「四つのテスト」は、ご存知のように1932年にシカゴクラブのHerbert John Taylorが会社再建の経営管理指針として考案したのですが、日本ではロータリー創立50周年記念事業の一環として「四つのテスト」の邦訳が公募され、ロータリアンなら誰もが暗唱できる名文として引き継がれてきましたが、後に歌と曲が付けられました。「ロータリーの友」誌にも掲載され、全国に広がりました。

例会で歌うのは1番だけですが、2番、3番がある曲もあり、実に味わい深い歌詞ですので、皆さんも一度調べてみてください。



☑ 4つのテスト 言行はこれに照らしてから

01 真実かどうか

02 みんなに公平か

03 好意と友情を深めるか

04 みんなのためになるかどうか

❖ 幹事報告 ❖

山根 ひとみ

7月の例会 例会場:すべて箕面観光ホテル

25日 新年度方針 社会奉仕委員長、出席向上委員長
職業奉仕委員長25日 新年度方針 広報・会報、会員増強選考、
情報規定研修、青少年活動、
ロータリー財団、米山奨学会、
戦略計画
(各委員長による新年度方針)

・来年4月からの箕面観光ホテル改修工事に伴い例会場の使用が出来なくなることについて(事務局含む)、代わりの例会場、事務局のご提案をお願いします。

❖ 7/4 理事役員会報告 ❖

審議事項

- ・2024-25年度クラブ現況の完成について →承認
※訂正等ある場合は、7/8午前10時までに報告
- ・西宮会員休会届申請について →承認
- ・市民ゴルフ大会実行委員会委員の推薦について
→高橋会員とする

報告事項

- ・次々年度ガバナー補佐について →芝野会員とする
- ・IM実行委員長について →林会員とする

❖ SAA報告 ❖

SAA 浦 収

ニコニコ

芝野弘三郎会員：高橋様、木村様、河野様委員長卓話よろしく
お願いいたします。

庄司修二会員：本日卓話よろしくお祈いします

道林侑輝会員、河野優作会員、木村知也会員、西脇悟会員

浦 収会員、山口拓志会員

米山奨学会

高橋太朗会員：今日もよろしくお願い致します

道林侑輝会員、林たかみ会員、河野優作会員、西脇悟会員

芝野弘三郎会員、庄司修二会員、武久智憲会員、浦 収会員

山口拓志会員

ロータリー財団

片山秀樹会員、河野優作会員、木村知也会員、西脇悟会員

芝野弘三郎会員、庄司修二会員、高橋太朗会員、

上田紘史会員、浦 収会員、山口拓志会員、山根ひとみ会員

ポリオ

黄堂泰昌会員、庄司修二会員、山口拓志会員

恒久基金

高橋太朗会員、山口拓志会員

❖ 各委員会 今年度方針 ❖

プログラム委員長 高橋 太朗

今年度プログラム委員長の高橋太朗
です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は2020年5月に入会いたしました。林会長、河野会長、浦会長、芝野会長、黄堂会長、そして庄司会長と続いているのですが、例会のスタイルというものを考えてみた時、その時々
の状態に何とか合わせながらやってこられたのだなと強く感じます。2020年度はちょうどコロナの最盛期でしたからオンラインと例会場で行うハイブリッド例会などもありました。緊急事態宣言が出ている時は例会が開催できなかったですし、箕面観光ホテルでの例会が再開されても、この様な例会スタイルではなく、横並びのテーブルにペットボトルのお茶だけが置いてあるスタイルでした。入会して間もない私は、例会とはこういうものなのかなと思っておりました。それからコロナ禍が過ぎ去り、今の例会スタイルに戻っていくのですが、豪華な食事が出てくることに大変驚きました。今年度とはにかくコロナ禍以前の形に戻していこうという庄司会長のお考えで、ピアノの演奏の方にも入っていただく事になりました。私がプログラム委員長に任命され、すぐにやろうと思ったことは例会の最後に写真撮影をすることでした。という私はJCに所属しておりましたので、JCでは必ず例会後に写真撮影をすることになっておりました。ただJCの例会は月に1度、こちらは毎週となりますので、毎回だとなかなか大変だと考えを改め、月初もしくはゲストのある時にしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。その写真はSNSなどにアップしていくことで会員増強に繋がっていくのではないかと思います。皆様ご協力をお願いいたします。



本年度も41回の例会を予定しております。その内フォーラムは3回です。1回1回の例会を大切に、移動例会やイベントだけでなく、通常の例会についても1人1人の会員が参加をして良かったと感じられる例会運営を目指してまいります。今年度のプログラム内容は、2024-25年度「クラブ現況」にてご確認ください。

1年間どうぞよろしくお願いいたします。



☑ 4つのテスト 言行はこれに照らしてから

01 真実かどうか

02 みんなに公平か

03 好意と友情を深めるか

04 みんなのためになるかどうか

国際奉仕委員長 木村 貞基

今年度は諸外国からたくさんの人々がやってくる「万博年度」となります。例年通り、モレロス大学日本語研修生の例会受け入れ事業をはじめ、箕面市国際交流協会や大阪大学外国語学部との連携を深め、箕面市内に在住する様々な外国人との関わりがもてる「万博年度」にちなんだ事業を展開させていきたいと思います。さらなる充実した国際都市箕面の構築に向け、我が国の事業がその一助となるよう努めてまいりますので、会員各位のご支援、ご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。



親睦活動委員長 河野 優作

本日、親睦委員長としてお話をさせていただきます。河野優作です。簡単な自己紹介と今年度の当クラブの親睦事業についてお話ししたいと思います。お聞き苦しい点が多々あるかとは思いますがよろしく願いいたします。



まずは簡単に自己紹介をさせていただきます。庄司現会長にお誘いいただいたのが、2009-2010年度、芝野会員が前回の会長で西協会員が幹事の年度に入会させていただきました。早いもので、今年で15年目となります。当時、35歳で入会しまして箕面ロータリークラブの45周年、50周年、そして昨年の55周年というクラブ節目の周年事業、また2011-2012年度、黄堂直前会長の一回目の会長時、そして芝野実行委員長にて開催された、地区ライラ、2013-2014年度、上島会長時のIM1組のホストクラブとしての地区事業、また、クラブ内ではプログラム、SAA、広報、青少年、社会奉仕等の各委員長、そして2020-2021年度の会長、昨年度、2023-2024年度の幹事など様々な経験をさせていただきました。

その中で、学んだこととしては異業種の方と活動することによる意識の変化、自己改善や自らの職業を通じて社会に奉仕することによって、その成果として社会との継続的なつながりが得られることなど、数多くのことを学んだと思います。しかし、まだまだ勉強不足で未熟な私にとって親睦委員長という研鑽の場を与えていただきましたことは今年度、また大変、貴重な1年間になると考えております。

これまでロータリークラブは数多くの奉仕活動を経験しておりますが、本来は寄付団体でも慈善団体でもありません。会員相互の親睦を通じて生まれたエネルギーをもって、「他者に対する思いやりの心」を奉仕の規範とし、「他者のために尽くす、尽くそう」と努力している団体であると思っています。

この奉仕活動は原則として、会員一人、ひとりを単位として、自らの意思で参加していくことが基本となっておりますが、また一方では、クラブ単位あるいは全てのロータリークラブがまとまって行う奉仕活動も行われています。

これらはロータリアンの奉仕活動は各会員の職業を通じて、家庭生活、社会生活を通じて実践されます。すなわち、職業上では社員、関係取引先に満足が与えられるよう配慮します。

また地域社会の弱者に対し、手助けし、国際社会では飢餓の救済、疫病の撲滅、奨学生の交換、派遣など具体的な成果も多くみられます。

「ロータリーとは何か」の答えとして、次のように考えてはいかがでしょうか？

ロータリーは思いやりのある平和な社会作りを目指しています。このような社会の改良に奉仕するものはロータリアン一人ひとりです。ロータリアン自身の心の改善、すなわち奉仕の心の涵養は、会員相互の親睦を通じて助長されるものだと思います。

したがってロータリーにあっては教師がいません。ロータリアン全員が教師であり、また全員が生徒であります。つまりロータリークラブは自己を教育する場なのだと思います。

これら、親睦活動の基本的な理念を踏まえまして、今年度の親睦活動委員会の主だった計画としましては9月頃に納涼(残暑)例会、10月に箕面祭り、12月にはクリスマス例会、そして来年、1月に新年互例会、4月に創立記念例会と様々な事業を行う予定であります。

またクラブ内の対応、引継ぎとしまして、親睦委員の心得、例会前後の準備、跡片付け等々、各会員皆様の親睦委員会に対してご意見、ご注文、よろしく願いいたします。

また、コロナの影響を余り考えなくてもよい時期になりましたし、入会歴の若い会員の方も増えましたので、会員間の交流をより活発にできる集まり、例会を開催したいと考えております。

今後、様々な面で不都合や制約が生じることがあるかもしれませんが、会員の皆様にとって楽しく居心地が良く、そして意義のあるクラブ運営に努めて参りたいと思っております。

何かと行き届かないところが多々あろうかと思いますが会員の皆様のご支援・ご協力を頂きまして、この1年間を務めさせていただきますので何卒宜しく願い致します。

☑ 4つのテスト 言行はこれに照らしてから

01 真実かどうか

02 みんなに公平か

03 好意と友情を深めるか

04 みんなのためになるかどうか